

# かお・人・interview

2019年7月26日

部長

インタビュー



国土交通省 九州地方整備局  
河川部 部長

## 藤井政人氏

masato FUJII

九州管内の河川事業の中心である河川部。安全と安心を確保するため、河川の改修事業、維持管理、防災・減災に力を注いでいる。自ら「ミズベリング・プロジェクト」を立ち上げ水辺を地域財産として活用する取り組みのきっかけとなった。さらに川を身近に感じてもらうにはどうすればいいのか。今後の取り組みや課題など。防災と環境の両輪で事業展開を推進する新任の藤井部長に話を伺う。

### Q 部長就任にあたっての抱負

九州北部を中心に大きな被害が続きました。河川部長としてこのような災害対応に加えて、防災・減災を推進するのは急務ですが、そういった中でも川の特性を知り、地域の財産としていくことが必要であると考えています。

川は地域住民にとって交流の場でもあり、川と向き合うことで想像力を養うこともできます。その景観とは裏腹に、川は意のままにならない姿を見せます。災害を起こしながらも、景観、環境など、地域の生活の中に長年の間、息付いてきたものでもあります。



▲鹿児島県 曾木の滝 (写真提供: 公益社団法人 鹿児島県観光連盟)

九州の方々はその特徴を知り、学んで活用していると感じています。職員も業界団体や河川協力団体等と協力し合い、積極的に意見交換を行っているためモチベーションが高く頼もしい限りです。九州の川、地域を守ってきた方々と向き合い、国、県、市町村のパイプ役として、それをうまく融合させて、現状の課題や対策を連携し推進していきたいと考えています。

### Q 福岡県や九州地区との関りについて

九州への異動は初めてですが、出張では何度も訪れています。



▲曾木の滝分水路 下流側より  
(h24. 曾木はっけんウォーキング開催時)

その中で記憶に残っているのはグッドデザイン賞を受賞した川内川の曾木の滝分水路 (2012年度) と遠賀川の魚道公園 (2013年度) です。

川内川流域は、平成 18 年に記録的な豪雨により、甚大な被害を受けまし

た。その災害復旧の一環として、分水路が計画されましたが、治水機能だけでなく、近接する「曾木の滝」の持つ景観との調和にも配慮することが必要。この2本の軸をどう生かすことができるのか、地域に与える影響など、新しい試みが多く大変だったと思います。入省してから何度も鹿児島を訪れ、その工夫や検討を重ねたプロセスを見聞きしてきましたので、曾木の滝分水路には感慨深いものがあります。

また、遠賀川の魚道公園も九州の川に対する付き合い方がわかる取り組みです。改良される前の遠賀川河口堰の魚道は、特定の魚しか遡上できませんでした。多自然川づくりが積極的に展開され始め、できるだけ河川の形状を活かし、景観にも配慮した取り組みが拡がりました。

#### Q 今年度の河川事業の予算や事業計画

予算は、総額で約900億円、伸び率は1.3倍になっています。これらの中には、「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」が含まれており、緊急的に対応すべき箇所において、迅速に河道掘削や樹木伐採等の対策を進め、確実に効果を上げることが必要です。

また、九州北部豪雨で被害が大きかった赤谷川流域においては、今年度より本格的な復旧工事に着手するばかりでなく、砂防堰堤工事を着手します。今後、流域



▲遠賀川の魚道公園

全体の土砂洪水氾濫を防止するため、5年計画で集中的に本設の砂防堰堤の整備を進め、川の勾配が緩やかになり、川底が急な流れで削られていくのを防ぎます。

さらに、五ヶ瀬川総合水系環境整備事業が計画されています。五ヶ瀬川の川中地区は、住民の憩いの場ですが、水際が急勾配のため、利用面や管理に支障をきたしています。そこで、高水敷を整

備するなど、治水面での安全性を図るとともに、水際へのアクセス性も向上させます。

#### Q 新規事業やその課題や調整方法

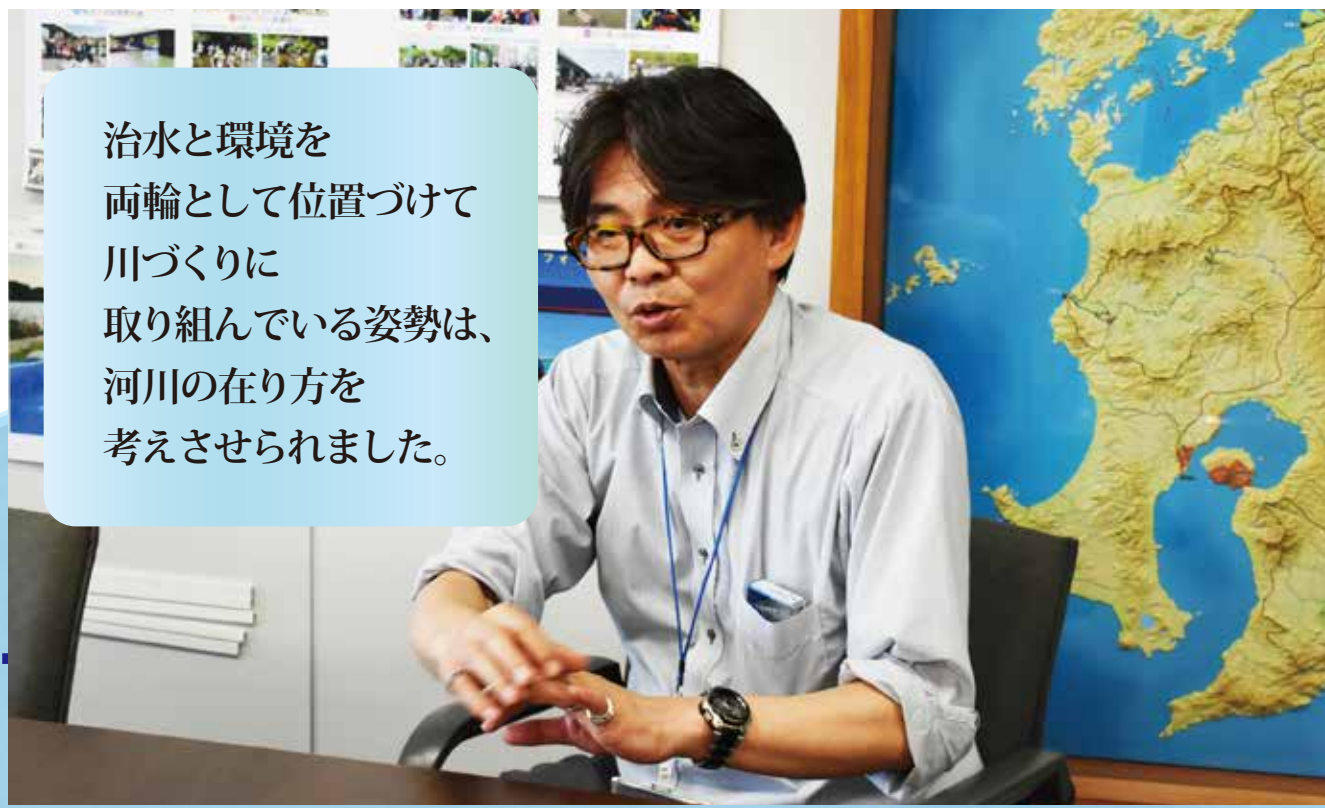
河川の新規事業のひとつとして、六角川低平地対策事業があります。六角川は低平地河川のため、これまでも氾濫が繰り返し発生してきました。その中で、新たに調整池を整備することで、洪水時の流量を低減させ、少しでも被害を減らしていくのが大事になります。

矢部川で新たに河川環境の整備を進めることとなりました。水辺整備を実施することで、賑わいを取り戻し、町の活性化につなげていこうという試みです。

#### Q 赤谷川流域の権限代行について

全国で初めて、河川法に基づく権限代行の適用となった赤谷川流域は、応急処置は完了しました。先ほども申し上げたとおり、これから本格的な河川改修を始めていきます。3月末には近隣住民を対象として水理模型実験を見ていただきました。赤谷川・乙石川・小河

治水と環境を  
両輪として位置づけて  
川づくりに  
取り組んでいる姿勢は、  
河川の在り方を  
考えさせられました。



内川合流点周辺の複雑な川の流れがどう変わるのか、1/30の縮尺の模型で、ご自身の目で確認していただきました。



▲赤谷川 河川計画模型

見学会に参加していただいた住民の方々は、非常にわかりやすい、今後が見えるなど、好意的な意見をいただきました。今後は、その期待を裏切らないようにスピーディに計画を推進していきたいと思ひます。

## Q 地域との連携・協働面について

九州は川と住民のつながりが、他の地域よりも密度が濃く感じています。そのことは、44という河川協力団体の数でも裏付けられています。また、河川協力団体の連絡会議は各団体の連携や情報共有の場ですが、参加することで各団体の横のつながりを深めることができます。このような取り組みを進めているのは九州だけです。

それぞれの地域に流れる川の価値を、次の世代にきちんと残したい。それが河川協力団体の活動につながっているのだと思ひます。官民が一体となりお互いに意見を出し合い、切磋琢磨できる関係を、今後も作り上げていきたいと思ひます。

## Q 地域建設業界への要望、メッセージ

働き方改革により、労働時間短縮、休日取得数の増加、人材不足の確保など課題は山積みです。大規模災害が頻発し、防災・減災の対策など、災害復興や建設事業のほかに建設業界が担う役割は重要になってきています。

そのため発注・受注には、業界団体の業務に支障が出る可能性があります。無理な工期やコストの設定があれば、声を聞かせてください。現状を少しでも改善しなければ、担い手や若手は育成されません。

同様の課題は、私たちの組織の内部にもあります。これまでと同様のやり方では、立ち行かなくなることもあるかも知れません。ですから、改革の初年度である今こそがチャレンジングに取り組み得る唯一の年というつ

もりで、働き方改革に取り組んでいくつもりです。

## Q 趣味や健康法について

学生のころは、野球やバレーボールなどのスポーツで汗を流していましたが、今は特別な運動は行っていません。ただ、もともと景色の変化や町の在り方に興味をもっていましたので、どこに異動しても街歩きは続けています。一瞬で通り過ぎる自動車や自転車とは違い、歩くスピードは、生活の息吹や花々の発見ができ、気持ちが満たされます。

福岡に来てからは、自宅から徒歩で毎朝出勤しています。時間にすると、大体50分くらいでしょうか。川沿いの道を歩いたり、花の写真を撮ってインスタグラムにアップするなど、健康も感性も磨くことができ一石二鳥です。こちらにきて数か月ですので、気に入った場所と呼べる場所はまだまだありませんが、これからゆっくり散歩しながら探していきたいと思ひます。

また、ご存知の方もおられるかもしれませんが、2014年3月に自ら「ミズベリング・プロジェクト」を立ち上げました。これは「川」と「まち」を「水辺」という一体的な空間ととらえ、まちづくりの中で、水辺の価値を高めていこう、そしてより賑わいのある空間となるようアイデアを出し合い、各々の出来ることをしていこうという取り組みです。



▲ミズベリング ロゴ

そのためには、川や街中に隠れた魅力、あるいは河川を整備することで生まれる新たな魅力をしっかりと捉え、そのために必要なデザインやその魅力をみがいていく仕組みが必要となります。それは、一つのモデル的な形を示せるものではありません。ですが、折角、九州という地に来たのですから、また河川行政の一翼を担わせていただけるのですから、「ミズベリング・プロジェクト」の提唱者としても水辺の活性化に取り組んでいけたらと思ひます。

### プロフィール



出身地：岐阜県  
 生年月日：S41年11月29日(52歳)  
 H3年4月 建設省(現：国土交通省) 入省  
 H17年4月 河川局 河川計画課長補佐  
 H19年4月 近畿地方整備局 大和川河川事務所長  
 H21年7月 近畿地方整備局 企画部 企画調整官  
 H23年7月 (独)水資源機構 ダム事業部 事業課長  
 H24年9月 水管理・国土保全局 河川環境課 河川環境保全調整官  
 H27年7月 関東地方整備局 京浜河川事務所長  
 H28年8月 総合政策局 公共事業企画調整課 事業総括調整官  
 H29年4月 環境省 環境再生・資源循環局 参事官(総括)  
 H31年4月 現職